

真の男女共同参画社会実現へ

～「日本女性会議 2007 ひろしま」参加報告～

10月19日・20日(金・土)、広島市で「一人ひとり 響きあって いま そして未来へ」をテーマに「日本女性会議2007ひろしま」(実行委員会、広島市主催)が開催されました。全国から延べ七千人が集まり、幅広いテーマで議論を交わしたのち最後に、「真の男女共同参画社会の実現に向けて力を出し合い、粘り強く活動する」との大会宣言を採択し、二日間の日程を終えました。

第1日目 (会場: 広島国際会議場)

～災害時に必要な女性の視点～

○基調講演 「地域防災の向上に向けて」

川端 眞さん(国土交通省中国地方整備局企画部防災対策官)

地域防災力を向上させるには、①自分の地域を知ること②近年の発生災害の特徴を理解しておくこと③地域の防災力を高め、生命財産を守ることが必要ですと述べられました。

○シンポジウム

コーディネーター・パネリストそれぞれの立場から次のような意見や報告がありました。

高月雅子さん(元茅ヶ崎市議会議員)

国・性別・年齢・障がいのあるなしを問わず、人権尊重を基本にし、意思決定に女性を参画させ、女性の視点を取り入れることが大切です。

正井礼子さん(ウィメンズネット・こうべ代表)

阪神・淡路大震災を検証し、性別に配慮した避難所の設計、乳幼児をかかえた家庭に対する支援、児童虐待と女性に対する暴力(DV・性被害)の防止、女性が失業しないための施策と支援の大切さを痛感しました。

椎谷照美さん(NPO法人ヒューマン・エイド22代表)

中越沖地震で一番恐怖だったのは、情報が無いことでした。妊婦や一人暮らしの女性、障がい者への視点も欠けていました。また授乳室や保育室、男女別更衣室・トイレなどの配慮もなされていませんでした。

藤原健吾さん(広島市消防局救急担当部長)

阪神・淡路大震災後、地域防災計画の修正・災害援護者対策・災害ボランティア活動環境整備・生活避難場所と仮設住宅建設地選定・食糧と生活必需品の備蓄に取り組んでいます。



大会宣言を採択するステージ上 ボランティアの市民スタッフが並び

第2日目 (会場: 広島厚生年金会館)

○シンポジウム「男女共同参画社会を超えて」

コーディネーター: 篠原収さん(広島女学院大学教授)

パネリスト: 李嬾淑さん(前韓国女性団体協議会会長)

田中真佐子さん(福山市外国人相談員)

今関周子さん(日産自動車株式会社ダイバー

シティディベロップメントオフィス課長)

○基調報告「男女共同参画の今、そして未来」

報告者: 坂東久美子さん(内閣府男女共同参画局長)

～女性の能力の活用を～

シンポジウムでは、男女共同参画社会基本法が施行されて8年になるが、現状は足踏み状態であり、今後における男女平等・多様性が受け入れられる社会づくりについて話し合われました。

それぞれの立場から李さんは、「日本では女性運動が弱く、女性の国会議員数も少ないですが、法律を変えることによりこの問題の是正を図ることが可能になります」と述べ、田中さんは「出入国管理法、難民認定法、在留資格制度などを再考する必要があります」と外国人の人権の尊重を訴えました。今関さんは、「車の購入を決めるのは女性です。意思決定レベルでの女性の能力の活用が不可欠となっています」と述べられました。

日本女性会議は1975年の「国際婦人年」を契機に、総理府(現内閣府)が後援して'84年に名古屋市で第1回が開かれました。今回は24回を数え、行政主導ではなく市民が中心となって企画・運営したのが大きな特徴でした。次回は2008年10月17日・18日(金・土)に富山市で開催される予定です。[日本女性会議2008とやま <http://www.2008toyama.jp/>]